



宮司就任祝賀会

九月十四日、高向宮司の就任祝賀会が玄海ロイヤルホテルで、三〇〇名を越す多くの皆様のご出席者を賜り盛大裡に開催された。

既報の通り、高向権宮司が七月一日付で宮司に就任したが、就任するや直ぐに地元の方々や各界からの就任披露を兼ねた祝賀会を望む声が多くあがり、日頃より大変お世話になっていらっしゃる皆様へのご挨拶、また高向宮司就任による新体制になっても変わらぬ皆様からのご支援、またご指導・ご鞭撻をお願いすべきの思いから、当社の地元責任役員の皆様が発起人となって頂き宮司就任祝賀会を催す運びとなった。

当日は日頃より当社の



10月祭事暦

- 1~3日 秋季大祭
- 15日 つきなみ 月次祭
午前10時~
高宮祭
第二宮・第三宮祭
午前11時~
総社祭
豊舞奉奏
- 17日 表千家献茶祭
午前11時~

江戸時代までは、神宮御師(神職)が全国各地を巡り、明治戦争前までは政府が、そして今日では全国の神職がその頒布に尽力している▼それ程まで長い歴史・伝統を有するが、昨今では「大麻」の名称から時折、麻葉の類と誤解されたりもする。昨日より大学の学内での麻葉蔓延がしきりに報道されていたが、最近では著名芸能人の逮捕が続く世の中である。誤解されるのも無理もない。かつての国民常識が、失われているのに深い危惧を覚える▼先日、伊勢で神宮大麻頒布始祭が斎行された。引き続き各都道府県神社庁・県下各支部の祭儀が執り行われ、各家庭に奉斎される▼伊勢の神宮は、皇祖神(皇室の祖先神)天照大御神をお祀りし全国神社の本宗とされる。我が国の建国以来、皇室を中心に国民がまとまり数多の国難を乗り越えて来た様に天照大御神を中心に八百萬神々はまとまられている。それが本宗とされる由縁である▼平成二十五年には二十年に一度の神宮式年遷宮があり、広く国民に御浄財が求められている。この様な時代であるからこそ中心帰一の精神で国民奉賛により御遷宮が恙無く斎行される様、皆様に考えて頂きたい。(佐)



伊勢の神宮の御札を「神宮大麻」と申し上げる。

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



小林氏子青年会長の音頭による万歳三喝

護持・運営にご尽力を賜っている方々のご出席を頂き開宴された。

先ず、発起人代表として松井参任役員のご挨拶、そしてご来賓であられる福岡県神社庁長の西高辻信良太宰府天満宮宮司と谷井博美宗像市

長からと相次いで祝辞を賜り、期待と励ましの言葉が述べられた。

次いで高向宮司が「この時勢、様変わりしているものが多いが神社には連綿と引続いた伝統・文化など変えず継続していかなければならないも

のがあり、皆様方のご協力のもとにそれを断行し続けることが自分の責務である」と力強い決意を申し上げた。

続いて、宮司とご来賓の方々の助勢を頂き「鏡開き」が行われ、福岡県神社庁副庁長の波多野盾夫仲宿八幡宮宮司のご発声の下乾杯がなされ祝宴が始まった。

祝宴が始まると直ぐに、

玄海料理人組合の方々のご奉仕による特設ステージでの「マグロの解体」がなされ、司が出席者に振舞われた。また、宗像観光協会のご奉仕による特設ブースにて「玄海焼き」や「焼きそば」なども振舞われ、ホテルの料理とともに、参加者は皆玄界灘の幸に舌鼓を打っていた。

祝賀会には多くのご来賓の方々にも参会も賜り、福岡県議会議員の山田勝智、阿部弘樹様、福津市長の小山達生様などのご出席を頂いた。

宮司はご来賓の方々への挨拶をすませた後、参会者皆様へのテーブルを廻らせて頂き、尚一層のご交誼をお願いすると皆様からの激励を賜り、どのテーブルでも会話がはずみ時間が何時間あっても足りない程であった。

終宴に際しては、小林栄二氏子青年会会長の音頭にて万歳三唱、参会者のご繁栄また宗像大社の発展が祈念され、安部照生宗像大社氏子会会長の閉めの挨拶を賜り散会とな



った。

当日はホテルのスタッフに交じって、不慣れながらも当大社職員が接客をさせて頂いた。不行き届きな点が多々あったと存じますが何卒ご容赦頂きますとともに、祝賀会が盛大裡に終了したことは皆様からの多大なるご支援の賜であり、参会者の皆様、また当日ご協力頂いた関係各位、紙面をお借りして衷心より御礼申し上げます。



発起人となられた松井参任役員(左)と安部照生会長(右)



谷井宗像市長

西高辻庁長



沖津宮を出陣される御神璽

みあれ祭に先立ち 沖津宮御神璽迎え

中津宮内陣に無事奉齋

十月一日の秋季大祭「みあれ祭」に先立ち、沖津宮の御神璽を大島の中津宮にお迎えする「沖津宮神迎え神事」が去る九月十三日に厳肅に斎行された。

前日の九月十二日、高向宮司以下奉仕神職五名が大島へ渡島、翌日早朝、「国家鎮護」の大幟、紅白の吹流し、船首に「波切り御幣」をつけた御座船「第八宮地丸」(船長＝宮本一郎氏)に神職以下沖・中両宮奉

賛会・翼賛会々員、宗像漁協等関係者が乗船し大島港を出港した。

暁の雨も止み、薄曇りの天候であったが海上は風、同八時無事沖ノ島に到着、直ちに海中にて禊をし、沖津宮本殿で出御祭が斎行された。そして神職が御神璽を捧持し、御祓いをしながら参道を下り御座船に奉安、一行は再び大島中津宮へ向かった。

午前十二時半、宗像警察署大島駐在の先導により中津宮迄御神幸、同宮本殿で入御祭が斎行され、本年度の沖津宮神迎え神事は滞り無く終了した。
尚、中津宮本殿内陣に仮鎮座された沖津宮御神璽は、中津宮の御神璽と共に十月一日みあれ祭の海上にて、お迎えされる辺津宮御神璽と年に一度の再会を神祝がれ、総社・辺津宮内陣に三宮の御神璽が奉齋される。

高向宮司、僧侶二〇〇名の前で講演

久留米市・善導寺での
浄土宗教化高等講習会にて

九月二日、浄土宗大本山・善導寺(久留米市善導寺町)で開催された第三八五回教化高等講習会に当大社の高向宮司が講師として招かれ、九州各地を中心に参加した浄土宗の僧侶約一〇〇名の前で講演を行った。



講演する宮司(背後の肖像画は善導寺開祖の聖光上人)

この講習会は九月二・三日の二日間に亘って、浄土宗宗務総長、佛敎大学教授などの講演が行われ、高向宮司は「宗像大社と仏敎」と題し、神道について、宗像大社について、宗像大社と仏敎との関わりなど約一時間三〇分の講演を行った。
この講習会は全国に七ヶ寺ある大本山を中心に各敎区ごとに開催されているが、神社の宮司



宮司の話に聞き入る浄土宗僧侶の方々

を招いての講演は珍しく、さらに当大社では浄土三部敎の一つ阿弥陀敎を写した阿弥陀經石(重文)を収蔵しており、参加者は興味深く宮司の話に聞き入っていた。
質疑応答の際も、阿弥陀敎石に関する質問が多く、浄土宗における阿弥陀經の重要さを再認識するとともに、神道、仏敎問わず貴重な文化財を守り伝えていく使命感を新たにされた機会であった。

第13回

出光興産(株)中堅社員研修・宗像研修
初の女子社員二名が参加

出光興産株式会社 人事部教育課



去る九月三〜五日の三日間、第十三回出光興産(株)中堅社員研修の宗像大社研修を実施させていただきました。今回の研修には国内各事業所の社員二十八名と、シンガポール、マレーシアで勤務している社員二名の総勢三十名が参加しました。また、本研修では初めての女性参加者が含まれており、宗

像大社の皆様には大変多くのご配慮を頂きました。

宗像大社研修は

- ①日常生活と離れた神域に身を置くことで感性を高めること
- ②創業者・店主出光佐三が多大な影響を受け、経営の原点とした日本特有の伝統文化に触れ、その思いを感じ取ること

の二つを目的に行わせて頂いております。

まず本殿で研修開始奉告祭を斎行、そして高向宮司より講話をいただき、参加者はあらためて宗像大社で学ばせて頂くことの重要性を確認し研修に臨むことが出来ました。

日々の研修は、朝の潔斎後、白衣白袴を着装、日供祭を行うことから始まり、高宮での鎮魂で終わります。神職の方と同じ装束で、神域に身を置いて生活するうちに、自然と日本の伝統文化の良さ、尊さを参加者の多くが感じたよう

です。

さらに宗像大社の御由緒説明はもとより、神宝館に収められている神宝を拝観することで、日本文化の奥深さを体感させていただきました。

そして、今回の研修ではじつくりと神道・日本伝統文化を学ぶことを目的とし、大島渡島に変えて、辺津宮での「奉仕活動」と「雅楽・祭祀舞鑑賞」を行わせて頂きました。

「奉仕活動」では第二宮・第三宮の御垣内、高宮祭場の清掃活動をさせていただきました。また、普段は近寄ることも憚られる場所に入り、実際に触れることが出来たことは、それまで何となく感じていた神道に対する心の垣根が取り払



研修生の前で「豊栄舞」を披露



宮司の開講挨拶



第二宮・第三宮での清掃

われたと感じた参加者が多く、神道を深く理解する上で大変有意義でした。
「雅楽・祭祀舞鑑賞」では、それまで和やかに接して頂いていた神職の皆様の真剣な表情や、日本古来の音楽・舞を間近に見聞し、その荘厳さに心を動かされ、後の感想でも触れている参加者が特に多くおり

ました。

最後に研修生の感想を一部ご紹介し、宗像大社研修の成果をご報告申し上げます。

研修生の感想

◆ 神道での作法・礼が意味を為すなどの、日本人の心を考える時間は普段持つことが無く、この後二週間続く研修のはじめにこの時間をとることは重要と感じた。

◆ 研修の冒頭に、宗像大社のような非日常的な空間に身をおくことで、研修に対する意識や緊張感が一気に高まった。

◆ 神道を誤解していた部分があったが、店主の思い、考え方を正しく理解することが出来るようになったと思う。

◆ 神様との仲取持として日々生活している方々の気持ちがあるがほんの少しでも



高宮祭場での清掃奉仕

感じられた部分があり、自分の日常と照らし合わせ、自分はどうあるべきか考えさせられた。

等の感想が数多く寄せられ、中堅社員研修のはじめに宗像大社で研修させていたただく意義が十分伝わっていることが確認できました。

このような研修内容の実施にあたっては、これまで以上に宗像大社の皆様に多大なるご協力いただきました。あらためて御礼申し上げますとともに宗像大社の益々のご繁栄をお祈り申し上げます、研修の所感の結びと致します。

地元中学生 職場体験学習

～二年生四名が、巫女を体験～

九月十四～十八日にかけて中学生職場体験学習が宗像市内各所で実施され、当大社でも申し入れ当初より地元の玄海中学生を受け入れ、本年は八尋美咲紀さん、立花沙也加さん、小林千穂さん、中野史菜さんの二年生四名が巫女の社務を学んだ。



体験学習は五日間に亘り、白衣・緋袴に



ながらも習った作法通りに玉串拝礼を行った。中学生達は終始、元気な様子で、普段は着ることない白衣・緋袴の着付けも、最終日には、全員自分で着付け出来るようになったり、境内清掃では意欲的に取り組む様子が見られたり、慣れない環境にも負けることなく体験学習に励んでいた。

この体験学習は「生きる力を身につけた子供」を育成することを目的とし毎年市内の各事業所にて実施されている。四名の皆様の今後益々の御活躍を切に御祈念申し上げます。

第33回 東西神社人親善野球伊勢大会

三連覇ならず、兵庫チームに惜敗

太宰府天満宮・宗像大社の混成チームは参戦四年目となる、第三十三回東西神社人親

善野球伊勢大会が、去る九月十七〜十九日に伊勢神宮当番により三重県鳥羽市に於いて開催された。

三重県へ入った

初日全国六チーム約一五〇名が神宮司庁へ参集、役員選手歓迎会を催して頂き、懇親を深

めつつ翌日の野球大会への意気込みを語りあった。そして抽選会では葦津監督(宗)が第一試合の開幕試合を引き当てた。

当日、出雲・金刀比羅チームと対戦、当チームの先攻で始まり初回から着実に得点を重ね四回時で十得点を数えた。守備面においても二本柱神島

崇(太)、大塚(宗)の継投で零封に抑え快勝し二回戦へと進む。

十五分の準備を挟み引き続き兵庫チ

ームと対戦、初回当チームの攻撃は三者凡退、兵庫チーム二番打者宮城が右中間へスリーベースを放ち、四番中島にセンター前タイムリーを打たれ先制を許す。二回の攻撃、四番神島崇(太)、大塚(宗)



東西神社人親善野球大会

太宰府・宗像



鳥羽市での試合の様子

の連続ヒット等でツーアウト二・三塁とし、九番森(太)の会心のレフト前ヒットで二得点するも、その後同点にされ、更に二点を引き離され、五回最終回を二対四で迎える。全員が素晴らしい集中を見せ、粘り強い打席で連続四球を選び五番大塚(宗)のセンター前タイムリー等で四点を得、大逆転しチームは最高の盛り上がりを見せる。

しかし、兵庫チームの勝利への執念が勝り、満塁にされ最後は代打サヨナラヒットで六対七で敗れ、三連覇の目標もここで潰えた。順位決定戦では熱田チームに、二回戦で燃え尽きた当チーム十一対六で敗れ四位が決定した。

決勝戦は主催神宮チームと当チームとのシーソーゲームを制し勢いに乗る兵庫チームが対戦、敗れた他全チームが見守る中豪打を見せた兵庫チームが二年振りの優勝を決めた。

翌日は役員・選手一同別宮伊雑宮を参拝、引き続きミキモト真珠島を観光し、其々全国各地のお社への帰路へとつ



小郡市での試合の様子

いた。

また、八月三十一日には恒例の太宰府天満宮との親善野球大会が開催された。

お互いを知り尽くした両チームであるが、この日はやはり敵味方に分かれて戦い、当大社チームも奮戦したが、結果五対〇で完敗となった。

試合後は太宰府天満宮内にある鬼すべ堂に於いて東西神社人野球大会慰労会並び両社職員の大懇親会を催して頂き、来年の優勝旗奪還を誓い、また両社職員一層の懇親を深め散会となった。

太宰府天満宮との親善試合

(続)

浜の寄物

240

いしいただし



JR鹿児島本線の福工大前駅と古賀駅との間に二つの駅がつくられることになり、今年四月には古賀駅側に、ししぶ駅が開業した。福工大前側の駅名は「新宮中央」と決まっているが、まだ工事も着工されていない。

四月に開業したししぶ駅東口の広場にモニュメントと記念碑が建てられた。メインのモニュメントは、かつてこの地にあつた鹿部大池(通称レンコン池)をしのんで、蓮、蓮根をイメージし、中に過去

と現在、未来を往来する「窓」を表現しているという。その周りの八本の柱は糟屋屯倉といわれる鹿部田淵遺跡の大型柱列群をあらわしている。八本の柱上には小さな彫刻が乗っている。この一帯は大池や丘陵地、水田等だったところだが団地造成のため、景観が一変してしまった。その為にかつての歴史や風景をこの彫刻で記憶にとどめおこうとしてつくられたものである。彫刻は、



ししぶ駅とモニュメント



古賀市・鹿部山 経筒 12世紀



鹿部山

経筒・甲冑・蜻蛉・貝殻・鮎・稲・ウグイス・蓮花である。この八

つについて解説をしてみたい。経筒が見つかった鹿部山は、東・中・西の三つの峯を持った美しい山で、椿山とか、向こうの山とか古賀市民から呼ばれて親しまれてきた。昭和四十七年から始まった花鶴丘団地の造成で東と中の二峯は削られ、その土砂で水田が埋められて消滅してしまつたが、皇石宮のある西の峯は残され、今は鹿部山公園として市民の憩いの場となつている。

造成前の昭和四十六年二月に、中の峯の頂上付近で経塚とおぼしきところから石の容器に入った銅製の経筒や青磁の合子や皿などが見つかった。経筒は直径一〇センチ高二十六センチの銅製有節経筒だった。中の経筒は炭化していた。経筒の銅回りに筑前国席内院父々夫峯・・・永久元年(以下略)という文字が点刻されていた。

父々夫はちちぶであろう。今この山や一帯はシシブ鹿部の字があてられているが、これが埋納された永久元年(西歴一一一三年)は平安時代後



永久元年・鹿部山での祈り

期である。ししぶの地名が平安時代までたどることができるといえる。ししぶ駅の名は歴史的に古く経筒に刻された貴重な名であるといえよう。今残っている鹿部山には皇石神社があり、神社のご神体は二・五畝大石で明治三十一年旧正月にこの付近から合口甕棺が発見され銅剣・銅戈が発見されている。銅戈は古賀市立歴史資料館に展示されている。この山には、弥生時代から中世の遺跡があり、祭祀などが行われていた可能性がある。標高五十七・五畝頂上には日の丸が揚揚されている。また展望台も設置され、玄界灘が一望できる。経筒の碑も建立されている。

第五七八回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



今月は大野先生病氣療養のため、選者寸評はお休み致します。来月号より再開する予定です。

宗像市 土穴 山本 静子
嫁がくれしことしの茄子の辛子漬ほどよき辛みを味わいており

福津市 若木台 山崎 公俊
高宮のあのまん央なかに臥かてみたい地べたが予兆を告げてはるぬか

北九州市 八幡西区 豊田 光子
引き揚げて時たがはぬものもの憂くてまたかの岸に彼岸花炎ゆ

宗像市 日の里 石松 弘次
楠わか葉あさの光りに照り映えて子等の来るやも孟蘭盆近づく

うきは市 浮羽町 向 則正
つゆ晴れ間久方振りに歩みゆく半月の黄は近まりて見ゆ

福津市 中央 池浦千鶴子
母さんと呼ぶ声きこえ振り向きぬ又も不覚をとりて苦笑す

福岡市 南区 井田有久衣
鼻の下にうすき髭生う高校生白きギブスの姿痛まし

北九州市 戸畑区 田中ハツセ
秋風にゆれて咲きある水色の朝顔の花に生気をもらふ

福津市 若木台 野間 精一
われも孫も祖霊の御前に畏みぬ今日はわが年に一度の中元祭

宗像市 田久 卷 桔梗
み社に降る蟬のささるさるし時雨は耳にやさしきものを

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
「健康は宝」と書かれし老翁の額掲げあり診療室に

宗像市 田久 井上 光
沖繩に特攻戦死の友悼み終戦日正午黙禱したり

宗像市 田野 森 甲子
大雨の降るなか田んぼ見回りしも今は縁より案じつつ見る

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
にがうりの蔓が支柱の先端に届けますます実のならんかな

福岡市 南区 加野シノブ
さるすべり紅色の花長く咲く總選挙ありて國はゆれつ、

宗像市 土穴 山本 静子
透けて見ゆる外反母趾に義妹がわたしもよとて素足出す益

福津市 若木台 山 公俊
八月の海風がきて高宮の木々に音あり飛沫あびしこと

第39回 西日本菊花大会のご案内

神郡宗像に菊の季節が到来しました。九州各県を中心に、全国の菊花愛好家が丹精込めて作り上げた銘花約三千鉢が境内中に展示されます。この大会の最高賞は内閣総理大臣賞この他に大臣賞が十一本授与され、別名「菊作り九州ナンバーワン決戦大会」とも呼ばれています。

期間中は、観菊者、七五三詣での家族連れなどで賑います。また菊苗・菊鉢の販売、勅使館をこの時期限定で特別に開放「抹茶コーナー」、豪華景品が当たる「菊みくじ」、宗像観光協会の運営する「いっぶく茶屋」なども開かれています。是非、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

期間 十一月一日(日)～二十三日(月)
時間 終日
会場 宗像大社境内
拝観料 無料
駐車場 無料



第五五三回 俳句作品集

福津市 勝浦 高山 睦子
かなかなや木漏れ日およく露天風呂
宗像市 平井 占部 詩子
八朔の引潮に来る鳥賊の骨
宗像市 日の里 花田いつ枝
掻き分くる草より匂ふ花茗荷
宗像市 神湊 永島 紀子
庭先の小枝に咲ける遠花火

編集後記

郷里に帰省させていた
だき、予定通り栗林中将の墓所、
松代大本宮跡(象山地下壕)へ行
つてきました。善光寺から少し
距離があり、川中島合戦や真田
一族、或いは佐久間象山などが
観光の目玉となっている長野市
松代。町の景観を含めて武士の
時代を感じますが、同じ観光ル
ート上にあるながら、時代が戦
中にもどる象山地下壕には少し
驚きました▼捉え方は人それぞ
れでしょうが、あの地下壕は日
本人であれば一度は訪れるべき
場所でしょう。ほんの六十数年
前のことを現実として強烈に認
識できる場所の一つです。栗林
中将の墓所では、初めてみまし
た。石の名刺入れがついていま
した。中将の生き方を慕い多く
の方が訪れるためでしょう▼そ
して帰福後、ついに政権が交代
しました。戦争を決定していつ
たあの時代も度重なる政変があ
りました。が、今回の政変で日本
はどう変わるのでしょうか、期
待と不安でいっぱいです。(塚)

宗像大社事務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 壺津幹之
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円